令和４年度・第８回未来会議（全体会）　議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
・　副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：令和４年１１月２０日（日）１３：３５～１５：４０

会場：西集会所

出席者：（順不同、敬称略）
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）
鎌田　卓（事務局長・会計）、田口　信義、中谷内　政之、中世古　昭一、山田　勲、
黒田　勝行、山田　修、平井　誠三、三室　哲哉、山地　祐輔、渡辺　昇、

欠席：鈴木　豊、谷猪　富貴子、蔵田　かほり、

配布資料
① 議題
② 子育て分科会活動報告
③ 分科会報告書「高齢者にやさしい支え合いのまちづくり」
④ 「鹿ノ台中央公園 de ぼちぼち」イベント報告
⑤ 第７回オータムフェスタ２０２２の結果報告
⑥ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線・実証運行乗車実績（人数）10 月度
生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線・実証運行実績分析(令和４年 10 月)
⑦ 令和５年度　未来会議　予算案作成日程
⑧ 生駒市の水源がすべてなくなる！

未来会議構成員の人事について
・中谷内政之さんから退任の申し出があった。中谷内さんには、未来会議準備委員会の事務局長として報告書をまとめていただき、また未来会議の発足時より１年８か月、構成員を務めていただいた。この

度、推薦母体である民生児童委員の改選を機に民生委員を退任されることになり、未来会議も 11 月 30 日をもって退任されたいとのお申し出があった。未来会議全体会に諮り、了承した。補充人事は田口連合会長と協議をして今後決定していく。
・9 月の未来会議全体会を傍聴された大阪大学の矢倉誠人さんは、ご自身の状況変化により、継続しての出席が難しくなったとのご連絡があった。
・6 月度から未来会議の分科会専門員として、また、9 月度から未来会議構成員として活動している三室哲哉さんが、子育て分科会からリーダーに推薦された。11 月度から子育て分科会のリーダーを務めていただくことで了承した。また、三室さんには、分科会リーダーとして幹事会にも参加して頂くことを承認した。

中谷内さんの挨拶：民生委員を 3 期 9 年間務めたが、今期で退任する。これを機に、いったんいろんな活動をリセットしたいと思い、この会からも退任したいと申し出た。地域の活動からすべて引いてしまうのではなく、防災会や北集会所の建て替えなど、今後もやるべきことはやっていくつもりである。今後もよろしくお願いします。

分科会からの報告

・

子育て分科会：

たけのこ・ふれ愛 in 鹿ノ台

・チームたけのこ主催で、１１月 6 日(日)にふれあいホールといきいき広場で開催した。チームたけのこは、国の予算で各地で活動している家庭教育支援のためのグループで、生駒では民生委員や元教員、元 PTA 役員などのメンバーで活動されている。今回は、子育て分科会から鹿ノ台でのイベント開催を働きかけ、共催した。
・当日は 119 名（内、こども 67 名）が参加し、工作やスポーツを楽しんだ。特にスライムづくりと松ぼっくりツリーに人気が殺到した。家庭教育支援としての親サロンには、小さいお子さんの親子が多かったせいか、参加がなかった。
・当日は、子育て分科会メンバーだけでなく、西桜美会のお二人や、校区の民生委員の皆さんもスタッフとしてお手伝いくださった。未

来会議のメンバーの皆さんも、警備にご協力いただいたり、当日お手伝いいただいたり、また、様子を見に来てくださったりと、たくさんご協力いただいた。お陰で事故もなく無事開催できた。ありがとうございます。

放課後子ども教室にじ

・10 月 26 日には「泉のたまご」というグループがお話し会に来てくださった。役割分担してドラマのように演じたり、音や大型の紙芝居なども用いたりして楽しませてくださった。11 月 9 日には体育館で生駒発祥のゲームを二種（ミニホッケーのようなゲームと碁盤の目状のコートにお手玉を投げ入れるゲーム）、体験させていただいた。

・保護者への連絡・出欠確認などを学校経由ではなく直接できないか、という学校からの問いかけがあり、「にじ公式 LINE」というシステムを立ち上げた。これは、にじから保護者に即時にお知らせや連絡を通知できると同時に、そこでお知らせする URL から、出欠連絡をしてもらい、Google 上で即時にそれが確認できるようにしたシステムである。今後、さまざまな場面で活用できそうだ。

中央公園の魅力向上プロジェクト

・ワークショップ開催に向けて住民と小中学生から意見を集めるためのアンケートを作成中である。子どもも理解できるアンケート、趣旨が分かりやすい説明文とするため、分科会でさらに検討していく。

・最近、鹿ノ台に転入を希望する人が増えているが、保育所の定員に余裕がないため、それがネックとなってきていることが分かった。何とかしたいが、市全体で取り組まねばならない問題なので、どうしていったら良いか、情報・意見を交わしている。

・ワークショップ開催については、市の都市計画課に協力を仰いだら良いという意見や、地域の人々による手作り感を大事にしたいという意見がある。今後、よりよいワークショップ開催に向けてさらに話し合っていく。

意見：不動産会社からの情報でも、鹿ノ台に引っ越したいが保育所に入れないので他所を紹介しているケースがあるということだ。何とかしたい。今の保育所でより多く預かっていただくことは無理なのか。

回答：保育は、年齢ごとに 1 人あたりで確保すべき保育スペースの決まりがあり、また、年齢ごとに保育士さん 1 人あたりで担当できる子どもの人数も厳密に定められていて、定員を上回ることができない。

そして今は、市全体でも保育士さんが足りていない状態である。

意見：幼稚園に通う子供は減っている。幼稚園を活用することはできないのか。

回答：幼稚園を子ども園にするということは、制度的には可能だと思うので、そうした動きを後押しするために私たちに何ができるのか、是非考えていきたい。

高齢者分科会：支え合い準備委員会

支え合いアンケート、ボランティア募集関係の状況

・利用者に対する趣意書と「困り事調査票」を、「防災会調査票」と同時に評議員を通じて配布した。差出人は自治連合会会長・各自治会会長・支え合い委員会委員長とし、組織全体で活動していることをお知らせした。

・回収した困り事調査票は、集計・分類・対象者の特定・マッピングを行っており、11 月 25 日までにまとめる予定である。途中結果は 11 月 13 日の「ボランティアさん募集説明会」で参考資料とした。

・11 月 16 日時点での集計途中の結果では、鹿ノ台の自治会員数 2,517 世帯のうち、回収総数が 2,214 通で、回収率は 87%である。困り事がないという回答は 1,551 通、意見のみが 68 通、困り事リストへのチェック記入総数は 663 件だった。

・困り事としてチェックがついた内容の内訳は、ゴミ出し・分別が 20 件、電球交換が 103 件、家電入れ替えが 12 件、越境枝が 77 件、水遣りが 17 件、送迎関係が 31 件、買い物代行 13 件、回覧を回せないが 22 件、電子回覧希望が 459 件、不安がある 15 件、健康・食生活支援が 41 件、その他意見・要望が 68 件であり、電子回覧希望が圧倒的に多い。これに次いで多かったのは、電球交換と越境枝の選定である。

支え合いボランティア募集説明会

・支え合いボランティア募集説明会には、男性 3 名女性 4 名の合計 7 名から応募があり、11 月 13 日の説明会には男性 1 名と女性 2 名、本日 11 月 20 日の説明会には男性 1 名と女性 1 名が参加した。

・応募者の 1 名が体調不良でまだ参加されていないので再度、新たな応募者があれば一緒に説明会を行いたい。参加者の方々は前向きな方が多く、活動的なので多忙な方が多かった。

・料理が得意なので何かできたらという申し出もあったが、当面はゴ

ミ出しをお願いした。ゴミ出しを担当してくださる方が２名のみで足りていない。できれば地区ごとに担当者がいるような状態にしたい。
・男性メンバーがあと２、３名いてくれると有難い。

ボランティア活動に参加して頂く方に守っていただきたい必須事項

・ボランティア活動に参加して頂く方に守っていただきたい必要事項について、アンケート調査の結果と合わせて説明をした。ただ作業をしに行くのではなく、元気で明るい雰囲気をもたらす存在になって欲しいと伝えている。
・来年４月に開始予定なので、それまでの期間に標準作業を文章化する、決まり事を決める、実技の練習が必要であれば実施するなど、連絡を取り合いながら進めていきたい。

質問：越境枝の剪定は、後の処理はどうするのか？
回答：生垣全体の手入れなどはやらない。越境枝の１～２本を剪定する場合は、切り口には癒合薬を塗布する。剪定枝は依頼主に処分してもらう。

追加情報：先週、ニジ電化と話をさせてもらい、古い照明器具などは壊れやすいからリスクが高いため、気を付けた方が良いというアドバイスを頂いた。電球交換は、年末は重なるので、やっていただけるのは有難いということだった。ただ、あまり安い値段でやると、あれもこれもと全部やって欲しいとなり、手が回らなくなるというご意見を頂いた。LED 照明器具への交換は、器具によっては電気屋さんに依頼してもらう。

質問：依頼者は会員にならないと頼めないのか？
回答：１回目は無料で依頼を受け、その時に６か月の会員になっていただくようお願いする。２回目以降は会員に対するサービスである。アンケートで電球交換にチェックを入れた世帯に地区ごとに順番に回っていき、器具や希望の詳細を調べて依頼を受ける予定である。照明器具が取り付け可能かどうかの判断は難しくリスクがあるので、購入は依頼主にお願いし、取り付けだけ請け負う。

質問：東１丁目自治会などで以前実施したアンケートとの関係はどうするのか。

回答：今回の調査とは質問内容が必ずしも同じではなく、また無記名の方がほとんどだったので、今回の支え合いの活動に直接結びつけることは難しい。東１丁目自治会では、そのアンケートでゴミ出しの依頼希望がなく、全項目合わせて希望者が３、４人だったので具体的な行動は取っていない。

意見：ボランティアさんの一般公募は少ないが、それぞれの項目について、これならできるという人は他にもいると思う。そういう人に個別にお願いしていきたいので、よろしくお願いします。

Toiro 主催「鹿ノ台中央公園 de ぼちぼち」の報告

・今回は、演奏者自らが運営に携わる形式で行った。鎌田さんに安全管理の指導していただき、コンサートの開始前と終了後、周辺の駐車の見回りや、交番の前といそかわ前の安全管理を実施した。
・参加者は 300 名ほど。朝日新聞に掲載され、イコマニアイベントとしても広報されたので、4 割ほどは鹿ノ台の外からの参加だった。演奏者は 50 名位の聴衆がベストと考えているが、キッチンカーにはもう少しお客さんが来て欲しいというニーズがある。
・「ぼちぼちいこか」はベルテラスやフローラムなどで継続的に実施しているコンサートの名称である。12 月には山麓公園などでも予定している。
・コロナ禍でイベントが減っている中、生駒市としても感染が起きにくい公園の利用を促進している。公園利用料は収益事業（キッチンカー・マルシェなど）が 1 平方米あたり 160 円、非収益事業（コンサート）が 1 平方米あたり 10 円である。今回は総額 6,000 円位だったが、1 店舗当たり 500 円頂いて支払った。
・生駒市みどり公園課には、中央公園の西側ステージの電源工事をお願いしており、検討と予算化を進めていると回答を得ている。利用実績を作っていきたい。
・電源は 4 月の時は自動車の電源、納涼祭の時は騒音が大きい業者の電源（レンタル料 1 日 3 万円）だった。今回は小型ポータブル電源で、音がトイレの方に向くようにセットし、騒音に配慮して実施した。
・似顔絵師は人気だった。食べ物は売れたが、手作り品の売り上げはあまりなかった。

意見：未来会議で桜の時期に森のコンサートを経験し、今回秋のコ

ンサートがあったが、秋は晴天が多いので、中央公園でコンサートを春と秋に2回やるのは良いと思った。芝生で寝そべって気楽にコンサートを聴けるという場所は生駒でも他にはないので良い PR になる。電源さえ整備したらもっとやり易くなるだろう。

回答：鹿ノ台の外の人でも、中央公園を利用したい人がいる。ベルテラスやフローラムなどは、利用する手続きが確立されているので、鹿ノ台でも利用方法を整理してみたが、みどり公園課には自治会で取りまとめて欲しいと言われている。今後も利用を広げていきたい。

意見：今後広めるとすると駐車場の問題や警備の問題があるので、他所の人が利用するのはどうかと思う。

情報：最近、中央公園の街灯がすべて消えたことが2度あった。中央公園の街灯は LED と水銀灯が混在しているが、水銀灯に問題があるようで、現在改善を図っている。

オータムフェスタ 2022 の報告

・いきいきホール運営委員会主催、自治連合会後援で毎年オータムフェスタを開催している。いきいきホールが建設されて以後、毎年実施しており、今年で7回目である。昨年と一昨年はコロナ禍で規模縮小や無観客開催を余儀なくされたが、今年は 10 月 15 日～11 月 1 日まで 16 日間にわたり、それ以前の規模で実施できた。
・コンサートと展示会の合計で 31 のイベントを実施した。昨年から 5 割増しである。出演者・出展者は 390 人、来場者は昨年の 3 倍近い 3,479 人だった。ビデオ配信も 980 回再生されている。ビデオのダイジェスト版（23 分）は今でも交流サロンで見ることができる。
・新しい試みとして、川柳教室の展示および句会を実施した。自治会主催イベントでは、北 1 丁目自治会の第 6 回展示会が実施された。
・オータムフェスタの開催には、多くのボランティアの方にもご協力いただいた。お礼申し上げます。

情報：ECOKA 委員会がいきいき広場にチューリップを 140 株ほど植えてくれたので楽しみにして欲しい。いきいきホールには、菊の設置やこいのぼりの掲揚などもボランティアで行ってくださっている。またいきいきホールの清掃は 4 つの桜美会と 1 つのボランティアグループが交代で実施してくれている。そうしたことも認識して頂き利用して頂きたい。

鹿ノ台コミバス 10 月の乗車実績

・10 月度は運行日が 12 日で、乗車人数は累計で 509 人、1 日あたり平均では 42.4 人である。８月、９月と比べると１日あたり５、６人減っている。
・午前中の第 1 便に乗る人が一番多く、最終の第８便の乗車が一番少ない。午前中と午後の比率も、６：４で午前が多い。降車はいきいきホール前が 11%、つじもと医院前が 2%となっている。登美ヶ丘降車は 39%、登美ヶ丘乗車は 47%。登美ヶ丘での降車は午前が多く、登美ヶ丘からの乗車は午後が多い。
・地区別の乗車実績は、東地区からが 27%、西地区からが 29%、南地区からが 15%、北地区からが 29%となっている（いきいきホール前の乗車を除く）。
・1 日平均 50 人乗れば経営的に安定して継続できる。奈良テレビの番組で取り上げられたので、今後認知が上がり、乗車が増えることを期待したい。
・今後の利用促進策として、いそかわ前でコミバスに乗降する人に対し、いそかわの買い物券を発行してもらえないか交渉中である。また、10 回乗ったらいきいきホールの交流サロンのコーヒー券がもらえるなどの特典を検討している。
・利用者に対するアンケートも準備中である。
・コミバスのせいで路線バスの便数が減るのではないかとの意見があるが、それは事実ではない。路線バスはコミバス開始以前より、すでに減便されていた。

情報：大手不動産会社もコミバスの資料を欲しがっている。コミバスによる利便性の向上も鹿ノ台の転入促進につながるようだ。

令和５年度　未来会議予算作成日程について

・令和４年度の未来会議の予算は 126,606 円だが、現在までの支出は 26,606 円で、執行率は約 21%である。広報誌の発行や転入促進パンフレットの増刷などを予定していたが、まだ実行していない。困り事調査票と支え合いボランティア募集チラシの印刷費は支え合い準備委員会の予算から支出されたため、未来会議からの支出はなくなった。
・自治連合会としては、緊縮予算を標榜しており、2023 年度の事業計

画も、そうした視点を織り込んで予算申請をして欲しい。

・今週中に予算案記入用紙を各分科会リーダーに送付するので、12 月度の第 9 回未来会議に予算案を提出して欲しい。1 月 14 日の幹事会でその案を検討し、1 月 16 日の自治連合会に予算案を提出したい。3 月の連合役員会で暫定予算案が承認され、来年度 5 月の新役員による連合役員会で正式決定される。

その他：奈良県域水道一体化における生駒市の状況について

・奈良県の 26 市町村の水道が 2025 年、新たに発足する奈良県水道広域化企業団に事業統合される計画（県域水道一体化）が進められている。生駒市の水道事業も廃止され、県域水道に統合される方向で検討されている。

・この計画については、統一料金の積算根拠が示されないなど、県による情報公開も不十分であり、生駒市議会での議論も不活発であるため、心配した市民が陳情した結果、今日(11 月 20 日)たけまるホールで市民に向けた説明会が開かれている。

・この計画では当初、市町村の浄水場（地下水やため池を水源とするものも多い。生駒の場合も市営浄水場の水源の 4 割は地下水）をすべて廃止し、県内のダムから取水している県営の桜井浄水場と御所浄水場、および奈良市営の緑ヶ丘浄水場の 3 か所から域内全域に水道水を供給する計画だった。

・先月、奈良市がこの計画からの離脱を決定したため、生駒市は 2 つの浄水場のうちの一つ（真弓浄水場）の廃止を免れることになったが、それでも地下水の利用割合は減り、県から単価の高い水を買う割合が高くなる。

・県は、浄水場の統廃合を、水道施設への二重投資を避けるための策だとしているが、実際には余っているダムの水を市町村に受水してもらうための策である。生駒のおいしい水が県水で代替されることは、災害時の備えという意味からも好ましくないだろう。

・奈良県南部の過疎地帯では、簡易水道の広域化など国の政策の問題もあり、水道事業が赤字となっている自治体が多く、それぞれの一般財源で補填している。県域水道一体化では、そうした赤字水道についても市町村の一般財源による補填は求めず、その分は広域化企業団が負担する。他方で、統一料金では現行料金よりも高くなってしまう葛城市や大淀町には、より安い料金体系を提案しており、その差分も広域化企業団の負担となる。

・生駒市は、県域水道への参加により、10 年間は管路交換などに国の補助金が出るのがメリットだとしている。しかし、そもそも無借金で健全な経営を続けてきた生駒市が、自己水源の一部を手放し、高い県水の受水を増やし、補助金がなくなる 11 年目以降は他自治体の赤字水道を抱え込むことになる計画に参加することが、本当に市民のためになるのか、疑問である。

・この計画への不参加を決めた奈良市以外にも、内部留保金をすべて拠出することを忌避して参加をためらっている大和郡山市や、４４区長が市議長に再考を促している葛城市などが、この計画から離脱する可能性がある。情報を集め、市民の間でこの問題への理解を深めていきたい。

意見：これは民営化の第一歩ということだと思う。電気も鉄道もそうだった。奈良市は布目ダムを持っているから離脱したのだろう。しかし、吉野から農業用水を生駒まで導水するのに巨額の負担をしてもらっているということもある。いずれにしても、何でも補助金だよりではなく、受益者負担にすべきだろう。

質問：生駒市としては、今の体制では水道は続けられないということか？続けられないのであれば、県域水道に参加しないとは言えないのか？一体化に参加すれば効率化されるのか？

回答：国が水道の広域化を推進しているので、そのための交付金が当初 10 年間はもらえる。そのお金で老朽化した管路の交換が進められるというのが一体化参加の最大のメリットとされているように思う。他方で、自己水源が損なわれることにはデメリットがある。また、県域水道の統一料金の積算根拠が公開されておらず、コストの一角を占めるはずのダムの維持管理費も、30 年間ずっと毎年 6 億円と過少に見積もられていることだけは分かっている。

質問：生駒市の水道は今は単独で成り立っているが、今後もそれでやっていけるのか？

回答：日本中で少子高齢化が進んでおり、生駒市の水道料金も今後は値上げせざるを得ないことは事実である。また、生駒市でも 40～50 年前に敷設された水道管が多く、これからも継続的に管路の交換を続けていかねばならない。ただし、市内 2 か所の浄水場の耐震化はほぼ終わりつつあるので、そちらは当分は大丈夫だろう。

意見：こういう問題は市議会で徹底的に議論してもらうのが筋だが、そのような動きがあまりないようだ。

情報：各自治会には２か月ほど前に県域水道一体化の説明があった奈良市が不参加することによって変更があるのかと聞いたら、料金が少し上がると答えていた。

質問：今後のスケジュールはどんな感じか？
回答：12 月議会で市長が説明する。2 月に市長が調印を行い、3 月議会に報告（承認）するということになる。

意見：県民が判断できるデータが公表されていないのは問題だ。中身がよく分からないのに性急に進みすぎている。
意見：ヨーロッパでは水道民営化で料金高騰などの問題が起きて、再公営化しているところも増えている。民営化には問題がありそうだ。

結論：次回の未来会議で、中尾議員から今の状況について直接説明してもらいたい。本人に相談し、依頼する。

次回

日時
12 月 18（日）１３：３０ － １６：００
「東西」の構成員及び幹事は 13:15 集合

会場
西集会所

以上